

特集 淡路特産花きの新技術

淡路特産のカーネーションやストック等の切り花栽培では、気候変動への対応や省力化が求められている。今回は、ヒートポンプ、LED、スプリンクラーを利用した効率的、省力的な生産高度化

技術を紹介する。

西口 真嗣（淡路 農業部）

（問い合わせ先 電話：0799-42-4880）

短時間の冷房（EODc）と昇温（EODh）によるカーネーションの生産性向上

秋季の品質改善と暖房経費削減のため、ヒートポンプによる冷暖房を行ったところ、夏季の短時間冷房と冬季暖房時の短時間昇温の組み合わせ（EODc+h）は開花が早まり、収量が増加し、秋季の品質も向上した。

内容

これまでに、淡路農業技術センターでは、『夏季の日没後（End of Day）短時間の冷房（cooling）』（=EODc）を実施することで秋季の茎が硬くなり良質な花が得られることと、開花期が早まることを明らかにしている。さらに、『冬季の日没後短時間の昇温（heating）』（=EODh）を行うことで品質は変わらず、暖房コストを約20%削減できることがわかっている。そこで、これらの技術

を組み合わせ（EODc+h）（図1）、スタンダードカーネーション「エクセリア」を供試して、効果を確認した。その結果、EODc+hでは年内の開花が1週間程度早まり、茎が硬くなるなど秋季の品質が向上し、作期全体の収量の6%増が見込め、所得の増加（約38万円/10a）が期待できる。（図2）。

今後の方針

冷暖房可能なヒートポンプと側窓換気制御装置が導入された施設への普及を図る。

東浦 優（淡路 農業部）

（問い合わせ先 電話：0799-42-4880）

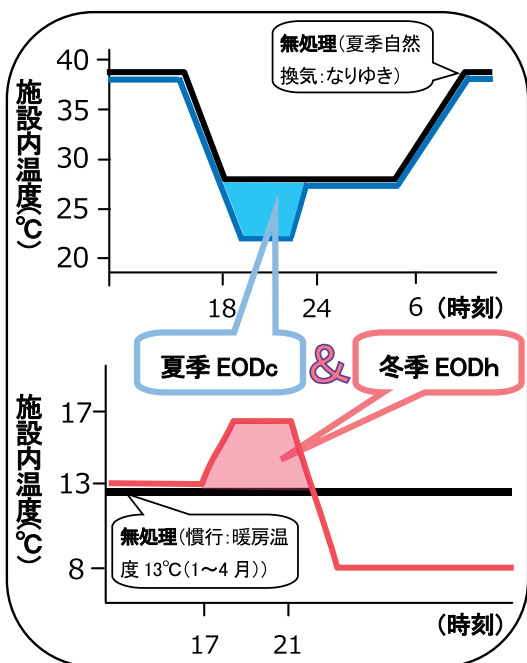


図1 EODc と EODh の組み合わせイメージ

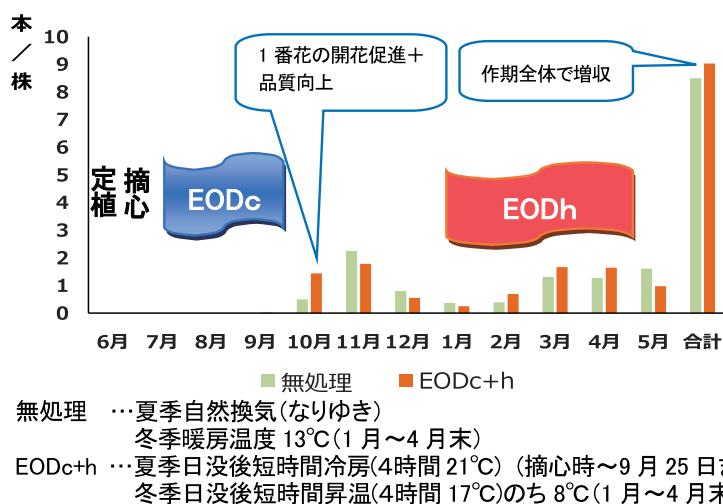


図2 EODc+h による月別収量